

クウェート国際HSE会議への参加

1. KIHSE 会議について

2015年2月16日と17日にクウェートで開催されたクウェート国際HSE会議（Kuwait International Health, Safety and Environment Conference: 以下 KIHSE 会議と記す）に JCCP より中井専務理事以下6名が参加してきました。

KIHSE 会議はクウェート国際石油 KPC が中心となり、Gulf 湾周辺諸国および世界でのオイル & ガスセクターにおける HSE に関する戦略構築と継続的な成功に向けて、世界中から HSE に関する専門家を招き、各国の知見を共有する会議で、本年より始まったものです。

会議は本会議の後援者であるクウェート オメール石油大臣（Dr. Ali Saleh Al-Omair）の冒頭のプレゼンテーションより開始されました。



Opening

2日間とも、午前中は大ホールでの全体プレゼンテーションを実施し、午後は Environment, Health, Safety の3つの Track に分かれ、それぞれについてのプレゼンテーションと質疑が行われました。

JCCP からは、中井専務理事が初日冒頭の全体会議 Plenary にて、有井参事が初日午後の分科会に分かれての Session 2 Environment Track にて、日本および JCCP の活動における HSE への貢献に関するプレゼンテーションを実施しました。

2. HSE 活動と JCCP の貢献

中井専務理事のプレゼンテーションでは、日本における安全管理の方法について、法的な厳しい安全基準に加えて日本的な仕事の進め方に特徴があることを、法規制 + ISO + “a” という視点を示し、紹介しました。この日本的な仕事のやり方は、チームワークと人材育成により支えられていることを話しました。チームワークについては、個々のオペレーションを担う各個人に責任と権限を与えることが日本的な安全風土を醸成する根源

であると話しました。人材開発については、日常の継続した活動の重要性を説明し、この基礎となる日本の文化は14世紀の徒然草にも既に見られていることを紹介しました。



中井専務理事講演 (1)

『徒然草：高名の木登り』

名高い木登り名人と言われていた男は、弟子に高いところの作業をさせていた際に、とても危なく見えたときには何も言わず、木から降りてくるとき、軒先の高さぐらいになったときに「怪我をしないように気をつけて降りて来なさい」と初めて声をかけました。この理由を名人は「目がまわるような高さで、枝が細く危ないうちは、登っている人は自分で注意をしますから何も言う必要はありません。事故は危なくないところになって気が緩んだ時こそ起こるものです」と説明しました。



中井専務理事講演 (2)

この話から、油断の危険性と注意喚起の必要性を説明し日本の現場で日常的に実施されている、指差呼称、KYK、ヒヤリハットといった啓蒙活動を通じて安全文化を根付かせていることを紹介しました。

環境対策については、日本の高度成長期における公害対策や省エネルギー政策を進めながら規制と設備投資を伴う成長持続を成し遂げた歴史と、その後のエネルギー政策や環境対応の重点の変化について説明を行いました。また、海域における排水浄化や廃棄物削減に対する取組みについても説明を行いました。

JCCP は、これら日本の優れた知見を伝えることで、各地各国の発展に貢献すべく、1981年の設立から研修生受け入れと専門家派遣を続けており、2013年度の実績では世界各国より796名（その内、中東諸国より399名）の研修生を受け入れ、80名（中東諸国向け34名）の専門家を派遣したことを伝えました。

3. 環境分野における課題と JCCP の取り組み

有井参事のプレゼンテーションでは、日本の石油産業の取り組みをエネルギー効率化と低炭素化の2種類のニーズに分類して紹介し、石油資源の本来機能にはエネルギー媒体と新材料の原料の両面の側面があり産油国と消費国の石油産業がこの側面に留意して、技術開発を進めていくことの重要性を説明しました。



有井参事講演

また、エネルギー変換の分散化と炭酸ガス処理の集中化が今後の市場の方向性であり、それに向けた日本の研究開発・商業化の取り組みを紹介しました。

JCCP はこれらエネルギーの有効活用について、産油国と消費国間双方の協力をサポートすると共に、この技術的な面で日本企業の産油国協力を支援する活動を行っていることを伝えました。

4. 各国の HSE への取り組み

参加各国のプレゼンテーションに共通することは、HSE は企業基盤に位置する普遍的な責任であり、これを満たすためには組織トップのコミットメントと人材育成における安全文化の醸成が不可欠であることでした。クウェート以外からもカタール、アブダビ、バーレーン、オマーンの各国要人が参加しており、各国各地域において、HSE が優先課題であることが分かりました。

KIHSE 会議は各国の大臣、各企業の CEO 等を含む 50 余名のプレゼンターによる様々な知見が発表され、次年度以降も継続的に開催することを約束して幕を閉じました。

(研修部 河嶋 邦男)



Closing